

ひまわりの声

題字：高森政雄区連会顧問

～イベント復活で楽しく住み続けられる地域に～

港南区連合町内会長連絡協議会会长 古屋 文雄



区民の皆さんには、日ごろから自治会町内会、区連会の活動にご協力とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年の5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になりました。これにより感染症への対応をしながらも、各地区で夏祭りや納涼祭、秋祭りといったコロナ前にあった大規模なイベントが再開されてまいりました。自治会町内会の皆さんと力を合わせて作り上げるイベントが、地域を盛り上げる大切な行事であると、改めて気づかされました。地域のために活動されている自治会町内会の皆さんに感謝申し上げます。

地域は高齢者や働き世代だけではなく、お子さんや学齢期の世代も含めて非常に様々な方がいて成り立っています。自治会町内会が福祉、医療、子育て等様々な分野の各団体と連携し、地域のネットワークを強化していく必要があります。また、自治会町内会は加入率の低下・慢性的な担い手不足という課題を抱えています。その課題解決のためにも、若い世代への取り組みかけが重要です。

港南区はデジタル技術を活用した取組にチャレンジし「あったかデジタル 港南」を目指しています。その中でも自治会町内会でICT（情報通信技術）を活用することが重要視されています。若い世代が参入しやすいように、また、事務手間を簡単にするために出来るところから新しい技術を取り入れていきましょう。今回の面では、子育て世帯の現状を知るための講演と区連会・区社協合同意見交換会の内容を紹介しています。より一層の地域のつながりづくりのため、次代を担う若い世代へ引き継いでいるよう、一緒に取り組んでいきたいと思います。

引き続き、区民の皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

港南区長から地域の皆様へ

港南区長 栗原 敏也

皆さんには、日ごろから港南区政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

区役所では令和4年度から「あったかデジタル 港南」としてデジタル技術を活用し、区民の皆さんの利便性の向上と区役所業務の効率化を進めております。さらに、今年度はこれまでの区役所業務にデジタルをプラスした「ぷらすデジタル」の取組を進めます。自治会町内会運営のサポートの一環としてICTツールの活用方法をまとめてご紹介するほか、子育て世代の皆さんがより手軽に情報を入手できるように、LINEメッセージによって子育て情報をプッシュ配信する“with 港南”を実施する等、多世代にわたる支援を実施しています。今後も誰もがいきいきと暮らしていくことができる「協働による地域づくり」を進めてまいります。

また今年、新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、自治会町内会の皆さんが企画してくださいましたイベントにお邪魔させていただく機会が増え、大変嬉しく思います。伺うたびに、皆さんが協力して活動に取り組まれているご熱意を深く感じております。地域でのつながりを大切にし、「愛あふれるふるさと港南に」を目指して区政運営に尽力してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



子育て世帯の現状を知ることでより良い 地域へ ~ 区連会・区協合同意見交換会 ~

令和5年8月30日、港南区連会・港南区社協、行政職員が参加し「区連会・区協合同意見交換会」が開催されました。「地域での子どもの見守り・安全対策と自治会町内会活動について」と題して、港南区子育て連絡会の池田代表による講演と5グループに分かれての意見交換を行いました。現在子育て中の池田代表が今の子育て世帯が抱える課題を提案し、若い世代への地域の関わり方を共有しました。



～お互いの課題の共有することで地域はもっと良くなる～

- ・今の子育て世帯は「生きるだけで精いっぱい」
- ・コロナの影響や子どもの遊び場の減少により人のつながりが希薄化
地域と子育て世帯との関わりには、「動機付け」が必要
「人の役に立つ」「親同士のつながり」「子どものため」「楽しい」
- ・地域や親同士の関わりを構築するために“か・つ・お・で”がキーワード
「か」顔を合わせる：あいさつ・声掛け
「つ」つながり：地域のつながりという関係性を作る
「お」恩送り：支援・機会の創出
「で」出番を作る：目的を持つ・達成感の共有



港南区子育て連絡会
池田代表



古屋区連会会長



荻久保区社協会長



栗原区長



若林地区社協分科会会长

〈講演を踏まえた意見交換〉

- ・子どもたちがイベントに参加してくれれば、親世代も同時に地域活動に巻き込むことができる。
子どもたちが地域とつながるためのきっかけとして、夏祭りなどのイベントを企画することが重要なことだと再認識した。
- ・「楽しさ」「達成感」が残らないと繋がらないと感じている。親や祖父母世代が楽しそうに自治会活動を行っていると、子どもも自然とついてくるのでは?
- ・4年ぶりにイベントを開催した際に学生がボランティアとして参加してくれた。アンケートに「地域とのつながりができる良かった」という回答があり、地域とつながりたいと思っている子どもたちがいるので、自治会町内会としても地域に入ってきやすい雰囲気をつくらないといけない。
- ・イベントも多世代に周知するため、紙のポスターだけでなくSNS等も併用していく必要がある。
- ・「地域への入り方が分からず」という話もあるが、引越しの荷物を運び入れるタイミングで地域の子育てサロン等の情報を渡すと反響がある。
- ・現役世代の方には「仕事優先でOK」「楽しく、無理のないように」という気持ちで参加してもらえるようになれば、地域活動の担い手が増えていくのではないか。
- ・コロナの3年間、自宅でテレワークしていた現役世代が平日の12~13時に地域の会議に参加してくれた。働き方が変わったからこそ出来たこともある。
- ・地域ではなるべく懇親会を増やして、会員同士の交流の機会を増やす等の仕掛けも必要である。
- ・共働きの家庭で、放課後は別の地域に住む祖父母宅に帰宅するお子さんがいる。町内会をまたいだ生活実態になる方もおり、参加する子どもも会も祖父母宅を希望するケースがあり、今後は柔軟な子ども会への参加を考える必要がある。
- ・子どもの塾や習い事が増え、地域での時間が短く顔を見ることが少なくなった。敬老・成人式・入学のお祝いに新生児のお祝いを加えて、新生児の情報が入るようにしたい。

【元気な地域づくりフォーラム】開催のお知らせ

日時：令和6年3月9日(土) 13:30～15:30(予定)
場所：港南公会堂 ホール

- ◆内 容 •自治会町内会など地域の取組発表
•令和6年度の取組方針の共有など
申込方法等詳細については、別途ご連絡いたします。
皆様のご参加をお待ちしています。

問合せ：区役所地域力推進担当 ☎847-8383



新旧地区連長のことば

～地区連長の交替があった地区から～

新 大久保最戸連合町内会長

横川 朱實

今年度より、大久保最戸連合町内会長に就任いたしました。5自治会町内会約5,650世帯が加入している地域です。行政、福祉分野の機関、単会等のパイプ役として活動を行ってまいります。

「ハートのあるまちづくり」「昔ながらのあたたかみのあるまち」「住みよいふるさとづくり」を目指して、各会長、役員、地域住民の皆様と共に、繋がりを大切にして構築してまいります。

よろしくお願ひいたします。



新 永野連合町内会長

高橋 克彦

永野連合町内会は11自治会町内会約7,800世帯で構成しています。

連合町内会の域内はその形がクジラに似ていることから、「ひまわりプラン」を「クジラ計画」と呼んでいます。2025問題に象徴される少子化、高齢化が一層進行する状況下で「誰もが楽しく年を重ねられるまちをめざして」地区社協と力を合わせて一歩ずつでも前進できればと考えています。みなさんよろしくお願ひいたします。



新 永谷連合町内会長

若林 諭

永谷連合町内会は、港南区の北部に位置し 7 自治会町内会約4,700世帯の会員で構成されています。

この度前会長のバトンを受け会長となりました。私の思いとしてみんなが「街づくり」に参加して「やりがい」を感じることができる、そんな地域活動を目指していきたいと思います。そして一人ひとりが①防災意識を持って行動する②地域に关心を持つ③自分の出来ることから始めるに取り組みます。



新 野庭住宅連合自治会長

黒川 和紀

野庭住宅連合自治会は、約3,200世帯の連合です。前任の木村会長が昨年逝去され、急遽会長に任命されました。突然の事で大変なことを引き受けたという気持ちですが精一杯やるのみと思って頑張ってまいります。

子どもの育成、高齢者の見守りやパトロールを強化し明るく住みやすい安心な住宅にしていきます。さらに魅力ある会にするため地域交流も活性化します。今後ともよろしくお願ひいたします。



前 大久保最戸連合町内会長

鈴木 渉

二年間と短い間で、なおかつコロナ禍での連合町内会で思いっきり活動ができなかった事に悔いが残ります。学校や行政での活動が中止となり、町内会の行事が全て中止となりました。しかし、コロナ禍でも町内活動は終わったわけではなく、近年の異常気象などでがけ崩れが発生しまして住民説明会など行い、県に申請をいたしました。新体制の優秀な方々による安心・安全な町作りに期待されますので安心してバトンタッチができました。



前 永野連合町内会長

三橋 茂樹

2017年から2023年まで 6 年間、永野連合町内会の会長として区連会に参加できましたこと、各連長、事務局の方々、社協、地区センター・ケアプラザ、その外多くの皆さんに支えられた6年でした。

初めて 6 階の会議室に入ったとき、テレビで見る国会の委員会室の様なレイアウトに感動と、興奮したのを今でも覚えています。その様な中で地域活動が出来た事に支えてくださいました皆さんに感謝申し上げます。

前 永谷連合町内会長

井出 恵章

前遠藤会長よりバトンを受け取り 8 年間務め、若林新会長に引継ぎました。この間、連合、区連会、行政など多くの皆様に大変お世話になりました。



在任中で残念な事は、コロナ禍で 3 年間諸活動が制限された事です。最近ようやく諸活動が開始されてきました。我々の合言葉「なが～く住みたい永谷へ」を皆で協力しながら進めることだと思います。退任しましたが、頭と体が許す限り地域の一員として協力できたらと思います。これからもよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

- 本号では、子育て世帯の現状を通じて若い世代と地域とのつながりについて検討しました。
ぜひご一読ください。
- 本紙及び区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。
- 区連会会報担当 市村喜正 / 宮島由美子
- 編集委員 筒井英子
横浜市港南区港南4-2-10 港南区役所地域振興課内
☎ 847-8391 FAX 842-8193

ひまわりの声では、港南区連合町内会長連絡協議会を「区連会または港南区連会」

港南区社会福祉協議会を「区社協または港南区社協」と記載しています。